

道のデザインから考える地域環境

みなさんは、人の人生や生活を「1つの道が左右している」ということを考えたことがありますか？

道は目的地まで人を導くものです。しかし、毎日使う通学路や通勤路、他にどんな道でも単に人を導くだけでなく、人に喜びや悲しみの感情を与えるという特別な働きも、1つ1つの道が併せ持っていると思います。また別の視点から見ても、通学路などで頻発する、交通事故や誘拐などの被害も道が作用していると考えられないでしょうか。

道は、その地域に住む多くの人たちの生活や人生に、意外にも大きな影響を与えていると思います。そしてそれは、道が生活環境の一部であり、重要な地域環境であることを示していると思います。

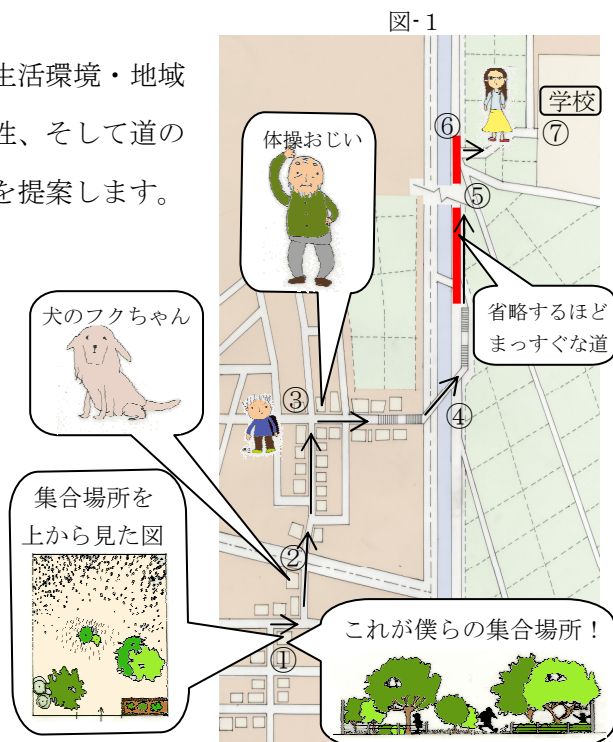
そこで私は自分の体験をもとに、道が生活環境・地域環境として人に与える影響と、その重要性、そして道の改善による、生活環境・地域環境の在り方を提案します。

私が小学生の時、学校まで決められた通学路がありました。(図-1)今の私が歩けば10分足らずの道のりです。しかし、当時はとても長く感じ、大変なものでした。それでもくじけることなく、毎日学校に通っていました。

学校までは、地区の小学生10数人が、集合場所に集まります。その集合場所に集まって、出発するまでの間に、石蹴り用の石や木の実を拾います。そして石や木の実を拾い終えた頃、出発の時刻を迎えます。

出発直後は足取りも軽く、ぐんぐん進んで行きます。道の途中、犬のフクちゃんに挨拶を済ませ、毎日体操をしているおじさんを横目に、交差点を右に曲がります。すると大きな歩道橋に差し掛かります。歩道橋はとても高く、顔の横を風が強く吹き抜けていく爽快さが、とても気持ち良くて好きでした。

歩道橋を降りると、そのあとに待ち受けるのは「まっすぐな道」です。周りは川と田ん



ぼしかありません。その道で、スタートから蹴り続けてきた石を田んぼや川へ落としてしまふと、後はただ「まっすぐな道」を淡々と進むこととなります。また低学年の子がトイレに行きたいと言い出すと、一行は大騒ぎでした。さらに雨の日はいつもより足取り重く、この道が永遠のように感じたものです。

「まっすぐな道」を抜ければ小学校に到着ですが、疲れ知らずの小学生が嫌気を持つほど過酷な通学路を通っていた 6 年間は壮絶なものであったと思います。そして今、「まっすぐな道」を思い返せば、道に“何もない”ことから、誘拐やひき逃げが起こっていてもおかしくなかったのではないのでしょうか。

以上は、私の子供の頃の話ですが、似たような体験をしたことがある人は、少なくないと思います。通学路だけに限らず、毎日通勤する道、近くのスーパーまでの道。道という普段気につけないようなことの中にも、利便性や危険性があり、その地域の環境と生活環境に大きく根付いていると思います。

よって、道を楽しく快適にしたり、利便性または危険性について改善することは生活環境や地域環境の改善に繋がり、人の生活の豊かさを左右すると思います。

では、具体的にどのように考え、改善していくか、先ほどの自分の体験に当てはめ、考えてみました。

前述の私の通学路を大きく分けると、歩道橋のような、子供が楽しいと感じる+の面、「まっすぐな道」のようにつらいと感じる-な面です。後この2つに+ α で、石や木の実などが加わります。そこでこの+の面を利用し、生かすことで-な面を打ち消したり、上回ることを考えた2つの提案をしたいと思います。

－自体を+にする、「会話を作る」提案。

地域の大人に「まっすぐな道」に、立ってもらいます。そして、大人から話しかけてもらったり、また逆に子供たちから話しかけて、楽しく会話をすることができれば、あの「まっすぐ」な道も少しは短く、楽しく感じるのではないのでしょうか。

+を強めて、－を打ち消す、「形を変える」提案。

歩道橋に風車や時計台を作り、その中を通り抜ける形にします。(図-2) 秘密や冒険の好きな小学生には楽しい道になります。その楽しかった余韻に浸りながら後半の「まっすぐ

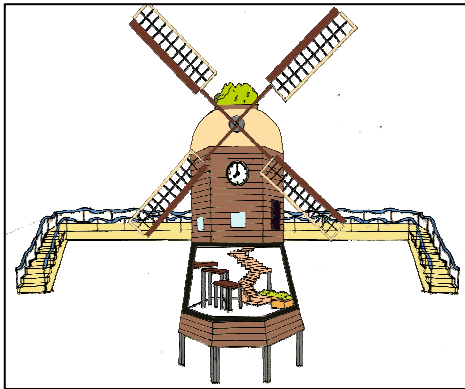


図-2・文中にはないですが、実用性もあれば
なお良いです。
例えば風力発電。。
明るい電気で暗いまっすぐな道も安全に！！

な道」を通れば単調な道も短く感じることでしょ
う。

さらに歩道橋に花壇を作れば、虫も集まり、子
供にはさらに楽しい道になります。そして最後に、
歩道橋にトイレもあればなお良いと考えます。道
中にトイレという利便性があることはたくさんの
小学生のピンチに手を差し伸べる、大きな救いにな
ると思います。

以上の2つの提案に大きく共通することは、道という地域環境が、それを利用する小学
生にとって嬉しく、楽しいものになるということです。

楽しさの中に、自然や人との繋がりという人本来の豊かさを子供たちに与えることや、
また単に楽しさや嬉しさという単純な喜びを、通学路によってより多く子供たちに感じさ
せてあげることが、子供たちに与えることのできる、最も重要で大切なことだと思います。

また2つの提案から、通学路の危険性の改善や利便性の確保も考えられます。

例えば私の「会話を作る」提案のような、通学路で地域の人と取り合うコミュニケーション
は、誘拐や交通事故のような危険を取り除く、防犯の役割を持ちます。安全な道は子供
たちにとって重要な地域環境です。またそれだけではなく、地域住民が日常的にコミュニ
ケーションをとり合うことで、大震災のような非常事態のときでも、互いに支えあい、協力
することができると思います。困ったときでも、地域住民が互いに助け合えるような環境
は理想的な地域環境であると思います。

「1つの道」は思っているよりも遥かに大きく、楽しさや豊かさの他にも、危険性や利
便性など、多くの面で人の暮らしを左右します。

そして道の在り方を考えることは、個人の幸福をつくることのみならず、その地域の環境
をも、大きく動かしていきます。

今、大震災、高齢化などの様々な問題により、地域環境の悪さが多くのところ浮き彫
りになってきました。地域環境や生活環境がもう一度見直されるべきです。

「1つの道」の在り方について、今一度考えてみることで、地域環境を豊かに、そして
たくさんの人の暮らしや人生を、楽しく幸せなものに変えていくことができると思います。